

第6 学校・家庭・地域連携推進事業の取組、指導者研修等



アイマスク体験
南小放課後子ども教室（吉見町）

学校・家庭・地域連携推進事業の取組、指導者研修等について

1 学校・家庭・地域連携推進委員会

- (1) 第1回学校・家庭・地域連携推進委員会
 - 実施日等 平成29年5月24日(水) 知事公館
 - 内 容 「学校応援団」「放課後子供教室」の推進について など
- (2) 第2回学校・家庭・地域連携推進委員会
 - 実施日等 平成30年2月2日(金) 知事公館
 - 内 容 ・「学校応援団」「放課後子供教室」の成果と課題について
・協議「地域学校協働活動」「放課後児童クラブと放課後子供教室の連携」について など

2 学校・家庭・地域連携担当者会議

- (1) 第1回学校・家庭・地域連携担当者会議
 - 内 容 事業内容の説明、全体協議、班別協議等
 - 実施日等 南部 平成29年6月20日(火) 浦和合同庁舎
西部 // 6月14日(水) ウェスタ川越
北部 // 6月16日(金) 寄居町中央公民館
東部 // 6月 2日(金) 春日部地方庁舎
- (2) 第2回学校・家庭・地域連携担当者会議
 - 内 容 事業の推進状況、全体協議、班別協議等
 - 実施日等 南部 平成30年1月17日(水) 浦和合同庁舎
西部 // 1月16日(火) ウェスタ川越
北部 // 1月26日(木) 寄居町中央公民館
東部 // 1月30日(火) 春日部合同庁舎

3 学校・家庭・地域連携実践発表会

- (1) 南部
 - 実施日等 平成29年11月22日(水) 響の森桶川市民ホール 参加者 450人
 - 発表内容 「地域に住む方々に支えられて～西堀小学校応援団の取組～」
新座市立西堀小学校
「地域の人材を活用した特色ある『放課後子ども教室』活動の推進～地域の
人材を生かし、学習に特化した『放課後学習教室』の取組～」
志木市教育委員会
- (2) 西部
 - 実施日等 平成29年11月22日(水) フレサよしみ 参加者 388人
 - 発表内容 「教育活動を活性化する学校応援団のあり方～地域に子供達の笑顔と感謝を
届ける～」
ときがわ町立明覚小学校
「鶴ヶ島市における放課後子ども教室の取組」
鶴ヶ島市教育委員会生涯学習スポーツ課
- (3) 北部
 - 実施日等 平成29年11月17日(金) 深谷市川本公民館 参加者 195人
 - 発表内容 「地域と共にある学校づくりの推進～コミュニティ・スクールの推進に向け
て～」
皆野町立三沢小学校
「横瀬町における地域の特性を生かした放課後子供教室の取組」
横瀬町教育委員会

(4) 東部

- 実施日等 平成29年11月29日(金) 蓮田市総合文化会館ハストピア 参加者 512人
- 発表内容 「地域の教育資源を活用した豊かな教育活動の取組～地域の方々の主体的参画を得た学習支援体制の構築に向けて～」
官代町立須賀小学校
「松伏町放課後子ども教室」の取組
松伏町教育委員会 教育文化振興課

4 平成29年度埼玉県コーディネーター研修等

(1) コーディネーター研修(県内4会場で実施)

- 実施日等 平成29年8月28日(月) 深谷市川本公民館 参加者 33人
平成29年8月30日(水) ウェルス幸手 参加者 33人
平成29年9月 8日(金) さいたま市民会館うらわ 参加者 65人
平成29年9月11日(月) ウェスタ川越 参加者 58人
- 研修内容
 - ・講義Ⅰ 「これからの学校と地域の協働の在り方～学校応援団・放課後子供教室を基盤として～」
全国体験活動ボランティア活動総合推進センター コーディネーター 橋本 洋光 氏
 - ・講義Ⅱ 「これからの学校と地域の協働の在り方～他県の優良事例紹介～」
全国体験活動ボランティア活動総合推進センター コーディネーター 橋本 洋光 氏

(2) コーディネーターステップアップ研修

- 実施日等 平成29年9月27日(水) さいたま市民会館うらわ 参加者 44人
- 研修内容
 - ・講義 「子どもを育む『縁』を結ぶ」
全国体験活動ボランティア活動総合推進センター 興梠 寛 氏
 - ・ワークショップ「協働教育をすすめるための課題とその解決のヒントとは？」
全国体験活動ボランティア活動総合推進センター 興梠 寛 氏

(3) 「学校応援団」及び「放課後子供教室」コーディネーター等体験学習会(埼玉西武ライオンズとの連携事業)

- 実施日等 平成29年10月14日(土) 埼玉県立加須げんきプラザ 参加者 10人
- 研修内容
 - ・キャッチボール・野球型ゲーム講習
 - ・親子野球型スポーツイベントの指導体験

(4) 平成29年度埼玉県放課後児童支援員研修会

- 実施日等 平成29年11月23日(木・祝) 国立女性会館 参加者 7人
平成29年12月10日(日) 埼玉県立大学 参加者 10人
- 研修内容
 - ・講義 「放課後児童クラブと放課後子ども教室の連携」
東京家政学院大学准教授 齋藤 史夫 氏
 - ・事例発表 11月23日 嵐山町放課後子ども教室
ふじみ野市放課後子ども教室
12月10日 新座市子どもの放課後居場所づくり事業
草加市放課後子ども教室

第7 「地域の教育力を生かした 学習支援の取組の推進」の ための研究委嘱について



稲刈り
ときがわ町立明覚小学校

「地域の教育力を生かした学習支援の取組の推進」のための 研究委嘱について

平成26・27年度の2年間にわたる「地域人材を活用した特色ある『学校応援団』活動の推進のための研究」により、地域人材の活用や特色ある「学校応援団」活動の内容充実に向けた方策等について、一定の成果を得ることができた。このことを踏まえ、平成28年度からは、各学校における学習支援の取組を推進すべく、地域の教育力に焦点をあてた研究を進めている。今年度は、志木市、ときがわ町、熊谷市、皆野町、宮代町の5市町教育委員会に研究を委嘱した。

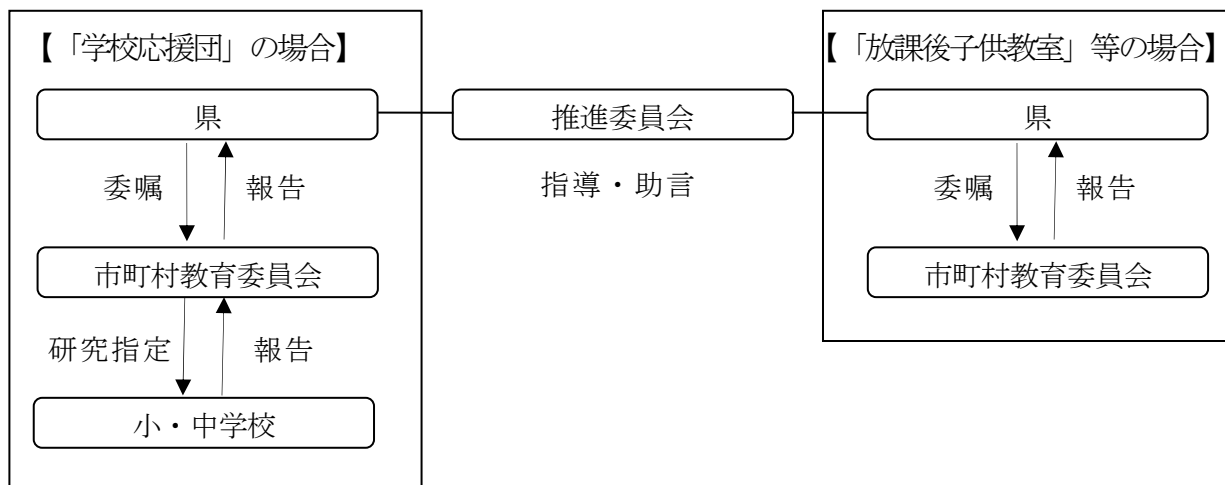
1 趣旨

少子高齢化、グローバル化等の進行、地域社会のつながりや支え合いの希薄化等により、子供を取り巻く環境が大きく変化している現在、地域の教育力を学校に取り込むとともに、地域の拠点として学校が積極的に家庭や地域に働き掛け、学校・家庭・地域が一体となった教育を推進することが求められている。そこで、学校・家庭・地域が連携・協働した取組を進める方策や運用上の課題などについて、実践を通して調査・研究するため、県内の市町村教育委員会に研究を委嘱する。

2 平成29年度研究テーマ

地域の教育力を生かした学習支援の取組の推進

3 事業の実施体制



4 研究内容

市町村教育委員会（学校）は、「2 平成29年度研究テーマ」に基づいた独自の研究テーマを設定し、次の〈研究内容例〉を参考に実践研究を進めることとする。

なお、研究の対象としては、「学校応援団」「放課後子供教室」「土曜日の教育支援」「中学生学力アップ教室」のいずれかの事業又は、複数の事業を組み合わせた事業とし、研究の推進に当たっては、市町村教育委員会、学校、地域住民などが相互に意見・情報交換を行う場を積極的に設けるなどして、地域と協働した取組を進められるよう留意することとする。

第7 地域の教育力を生かした学習支援の取組の推進のための研究委嘱について

〈研究内容例〉

- ◇ 地域の教育力を生かした学力向上の取組
- ◇ 地域人材の知識・技術を生かした学習意欲の向上につながる取組
- ◇ 地域の大学や企業等の教育資源を活用した学習活動充実の取組
- ◇ 学校と地域が連携した教育活動計画の立案・実施等の取組

5 委嘱期間

本事業の委嘱期間は、委嘱を受けた日から平成30年2月末日までとする。

6 委嘱手続

- (1) 委嘱を受けようとする市町村教育委員会は、別添様式による事業計画書を県に提出するものとする。
- (2) 県は、(1)により提出された事業計画書の内容を検討し、本事業の趣旨を踏まえた適切な計画であると認めた場合、市町村教育委員会に対して研究を委嘱する。

7 報告等

委嘱を受けた市町村教育委員会・学校は、次のとおり研究内容等について報告・発表するものとする。

- (1) 学校・家庭・地域連携推進委員会（年2回）に委員として出席し、研究計画の報告（第1回）、研究結果報告（第2回）を行う。（市町村教育委員会代表者1名）
- (2) 研究指定校における研究の実践及び学校・家庭・地域連携実践発表会における発表内容等については、市町村教育委員会の指導助言により進める。
- (3) 研究委嘱市町村教育委員会（学校）は、研究内容に関して視察を受ける。
- (4) 学校・家庭・地域連携実践発表会で研究内容を発表する。
- (5) 年度末に発刊する実践事例集に掲載する「実践事例」をまとめ、提出する。
- (6) 「実績報告書」を県に提出する。（「実績報告書」は、(5)の「実践事例」の提出をもって替えることとする。）

第8 「地域の教育力を生かした 学習支援の取組の推進」の ための研究実践事例



水鉄砲合戦
熊谷市立籠原小学校

1 研究のねらい

志木市の放課後子ども教室は、平成19年度より子供たちの安心・安全な居場所づくりを目的として、志木りんくす（志木地区）では、「暮らしの中の学び」をテーマに、宗岡りんくす（宗岡地区）では、「大人の背中を見せて行こう」をテーマに、それぞれの地域性を生かし、体験を重視した事業を実施している。

これに加え、平成26年度から、学習に特化した子供たちの居場所づくりの一環として、学習のつまずきやすい学年を対象に、学習習慣の習得と学力の向上を目的に、放課後学習教室を実施している。

平成29年度の放課後学習教室は、全小学校8校中6校で実施しており、地域の人材を生かした安心・安全な居場所づくりと学力向上の取組を研究のテーマとした。

2 活動の概要

- (1) 地域にいる教員経験のある人材をメイン講師とし、シルバー世代や、子育て経験のある方、子供とのふれあいを望んでいる20代の若い社会人等をサポート講師に迎え、学習のつまずきやすい小学3年生、4年生を対象に年間30回程度、復習を中心に行っている。
- (2) 平成29年度は、5月8日～3月19日に、各校月曜日に30回程度実施し、子供たちの習得度や、各学校の特色に合わせた楽しい学びの場を提供した。
また、メイン講師、サポート講師の打合せ等の会議を開催し、子供たちが意欲的に学習に取り組めるよう、意見を出し合い、共有し、より良い成果が得られるよう事業展開に努めた。

3 研究内容

- (1) 「放課後学習教室」の共通の取組
学校の教材と重複しないように、メイン講師に事前にドリルを選定してもらい、上巻・下巻を市が準備提供している。子供たちは、はじめに宿題を終えた後に、ドリル学習を進めていく。
- (2) 「放課後学習教室」の各学校の特色ある取組
 - ・志木小学校 : 今日の目標を各自で決めて、1人1人真剣に取り組んでいる。
 - ・宗岡小学校 : ドリルは、終わらなければ宿題で持ち帰り学習する。
 - ・宗岡第二小学校 : 授業のメリハリをつけるために、リクエストした本の読み聞かせを実施している。
 - ・志木第三小学校 : ドリルだけでなく、「しき郷土かるた」で気分転換をし、志木市の歴史等について、楽しく学んでいる。
 - ・志木第四小学校 : メイン講師考案の「チャレンジ問題」を毎回実施している。
 - ・宗岡第四小学校 : 4年生が、自主的に3年生のドリルを教えている。

4 研究の成果

(1) 主体的学習意欲の向上

- ・ わからないことは、自ら仲間や講師を活用して課題解決を図ろうとする力が育っている。(集団と講師の効果)
- ・ 宿題の分量に応じて、自らの判断で時間管理ができるようになってきた。
- ・ 4年生が3年生の学習を見ることにより、4年生の復習と学習意欲の向上につながっている。
- ・ 「しき郷土かるた」なども利用し、志木市の歴史についても学ぶ機会を設けている。

(2) 学校だけでは目が届きにくいところを補完

- ・ 漢字の書き順や筆算のやり方等、正確ではない子供もいるが、4人の講師で丁寧に見て回ることによって正すことができている。
- ・ 「わからないところは堂々と『わかりません』と言える放課後学習教室」であり、学校の補完的役割を果たしている。

(3) チャレンジ問題で深い学びの実現

- ・ 発展的な学習や総合力が試される学習の時間を設け、深い学びを習得している。
- ・ オープンエンドの問題も多くし、他者の考えに共鳴することも多く、集団の楽しさを感じている。

(4) 地域人材との交流から生まれる学習意欲の向上

サポート講師には、地域の方が多く、小さい頃からの知り合いというつながりもあり、子供たちは、ほめられた時など、学習に対する意欲が向上している様子が見られた。子供たちは、地域の方の温かさと親しみやすさに包まれて、安心して学習することができている。

5 課題と今後の展望

- (1) より効果的な学習支援の方法と、数値的成果が得られるよう学校管轄課との連携が必要である。
- (2) 人材の確保、また、事業運営を組織的に行えるよう取り組んでいく。
- (3) 子供たちに学習習慣を身につけさせることで、学力の向上につなげる。また、「頑張る気持ち」や「勇気を出して聞くこと」など、心の成長も図っていく。
- (4) 地域の方が、教育現場で多くの事例と接してきた講師と情報交換する中で、「できる・できない」「言うことを聞く子・聞かない子」ではなく、「子供を伸ばすことを優先する」という考えに変容してきた。今後は、更にその認識を地域に広げていく。



〔宗岡第二小学校の様子〕



〔志木第四小学校の様子〕

1 研究のねらい

学校・家庭・地域の連携を推進し、地域の教育力を生かし体験学習の充実など教育活動の活性化を図る学校応援団のあり方について実践を通じて研究することをねらいとする。

2 活動の概要

(1) 経営方針における位置づけ

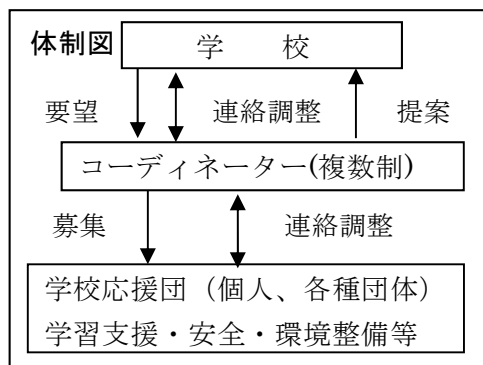
家庭地域との連携を図り、地域に愛着をもち、将来地域を支える人づくりを目指して学校応援団活動を推進している。

(2) 複数コーディネーター制の体制づくり

各専門分野の応援団の代表者がコーディネーターとなり、連絡調整を進めている。

(3) 主な活動内容

- ・ 学習活動への支援（農業体験、茶道体験等）
- ・ 安全確保への支援（登下校の見守り等）
- ・ 環境整備への支援（樹木剪定、学校農園整備等）



3 研究内容

(1) 総合的な学習の時間「育て！とかがわのキヌヒカリ」の取組

本校では、毎年5年生が総合的な学習の時間の中で米作りに取り組んでいる。6月に学校応援団の方が育ててくれた苗を現地で観察した後、田植えを行い、秋の稲刈り、脱穀、粃すりなどの作業も体験した。米作りの体験を通じて、農家の方の工夫や苦勞、豊作への願いなどについても学ぶことができた。



【初めての田植え体験】

学校応援団の方には、田植えから収穫までの期間の田

の管理もしていただいた。3学期には、お世話になった学校応援団の方を招いて、ライスパーティ(感謝の会)を行い、1年間の米作りを振り返るとともに、グループ毎にお米を使った料理を作り、学校応援団の方に食べてもらい、感謝の気持ちを表した。

【稲刈り後の子供たちの作文から】

「作業しているとき、学校応援団の方に感謝しながら稲を刈ったり、稲を結んだりしていました。お米一つ一つが大切なんだと思いました。」

「私は、お米を作るのは大変だということがわかりました。水の管理が難しいし、ほぼ毎日お米の様子を見ないといけないからです。学校応援団の方の優しさにも驚きました。私たちのためにほぼ毎日お米の様子を見に行ってくださったからです。」

これらの作文からも、子供たちは米作りの知識だけでなく、農家の方の願いや工夫を学ぶとともに、学校応援団の方への感謝の気持ちも育っていると考えられる。

(2) 創作和太鼓「とかがわ(5年)」・「祭りと自然のとかがわ自慢(6年)」の取組

本校では毎年6年生が音楽の学習で和太鼓に取り組んでいる。本年度は、かつてプロ

の和太鼓演奏集団に所属していた保護者の方を学校応援団として指導者に迎え、創作和太鼓に5年と6年で取り組んだ。学校や地域のよさを子供たちが考え、「あいあい あいさつ いっぱい明小 みんなの笑顔が あふれてる」「クワガタ ホタル いっぱい ときがわ町」などのかけ声を入れた。また、地域の川の流れを「流れ太鼓」で表現したり、伝統的祭り囃子のリズムや横笛・ささら等の演奏を取り入れたりした。可動式の太鼓の台やささらなどの伝統楽器の製作も学校応援団の方にご協力いただいた。創作和太鼓は学校公開日や地区の音楽会で演奏すると共に、地域の行事でも演奏し、保護者や地域の方からも大変ご好評をいただいた。この取組を通じて、子供たちに対しては、地域のよさを知り、地域への誇りをもたせることができ、また保護者や地域の方に対しては、地域の伝統を生かした演奏を見てもらうことで学校と地域のつながりを一層強めることができた。



〔和太鼓の指導〕

- (3) 学校応援団の活動の様子と感謝を家庭や地域に発信する取組

学校だよりを毎月2回発行して、家庭への配布の他、ホームページへの掲載や地域回覧を行っている。学校応援団の活動の様子をほぼ毎号掲載し、感謝の気持ちを表している。学校だよりは学校応援団の方に校長から手渡しをしている。その他、見守り感謝の会や読書集会などの集会で学校応援団の方に感謝する機会を設けている。また、本年度は長年見守り活動をされてきた方を県のシラコバト賞に学校から推薦し受賞された。

4 研究の成果

- (1) 郷土愛と感謝の心の育成

上記の実践の他にも、地域の特産物「のらぼう菜」の栽培や製材所・木工所などの見学等、地域を学ぶ体験活動の充実を図った。このことで子供たちが地域のよさを実感し郷土愛を育むことができた。また、学校応援団の方へ感謝する機会を設け、感謝の心を育てると共に地域の方とのつながりが深まり、あいさつもできるようになってきている。

- (2) 学校応援団の活動の活性化

昨年度から「のらぼう菜」の栽培や創作和太鼓等、新たな学校応援団の活動も増えてきた。学校だよりでの紹介や募集の効果もあると考えられる。花木の剪定をしてくださった方に学校だよりへの掲載をお伝えすると「また近所の人から言われるな」と照れながらも嬉しそうな表情を見せてくださった。感謝の気持ちを表すことが、学校応援団活動の活性化の原動力だと改めて実感した。

5 課題と今後の展望

- (1) 学校応援団の新たな人材の確保

学校応援団の方の高齢化が進み、世代交代が進んでいない活動もあり、新たな人材確保が課題である。今後も、学校だより等で募集するほか、コーディネーターの方が地域の方に声をかけるなどして、新たな学校応援団の方を増やす取組を進めていく。

- (2) 学校応援団の活動への教員の理解の促進

年度毎の職員の入れ替わりに伴い、教員自身が学校応援団による体験活動の内容等について理解が不十分なことがある。前年度の取組の具体的な計画や準備・連絡方法等がわかる資料を整理し、誰でも対応できるように環境を整備していく計画である。

熊谷市 研究指定校：熊谷市立籠原小学校

研究テーマ 地域人材の知識・技術を生かした学習意欲の向上を目指した取組
～ 学校応援団を中心とした地域の教育力を生かす学校支援体制 ～

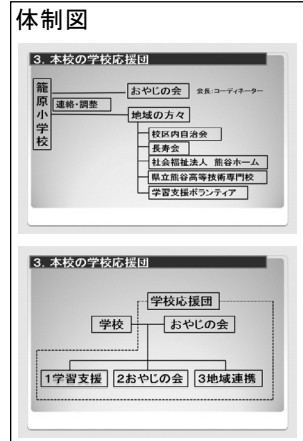
1 研究のねらい

本校の学校応援団は、「籠原小学校おやじの会」がその中核となり、校区自治会、籠原公民館、社会福祉法人熊谷ホーム等、地域の様々な立場の方に支援していただいている。地域の方による長年の取組により、本校の学校応援団の活動は、特色ある教育活動となっている。地域の方の支援による豊かな体験活動が、教室での学習をより確かなものにし、本校の研究主題である『できる・伸びる・分かる楽しさや喜びを味わわせる魅力ある学校』に大きく貢献している。

今年度は、研究テーマのもと、学校応援団の支援による豊かな体験活動をとらして、学習意欲の向上と地域を愛する心情や態度を培うことを目指すこととした。



【グリーンカーテン】



2 活動の概要

本校の学校応援団は、学校が連絡・調整役となり、「おやじの会」会長をコーディネーターとして、各支援に適した地域の方を紹介していただき活動している。支援の内容は、大きく次の3つに分けられる。

(1) 学習支援活動

書写（硬筆、書きぞめ）、理科（電気、メダカ、葉脈）、読書活動（図書館ボランティア、読み聞かせ）、社会（五家宝作り体験、お店見学、工場見学）、音楽（琴教室）、生活科（昔遊び）、総合的な学習の時間（高等専門学校見学、航空自衛隊熊谷基地見学）、運動会（籠原踊りの会）

(2) おやじの会の活動

グリーンカーテン取り付け・取り外し、田植え・稲刈り、水鉄砲合戦、流しそうめん、納涼祭・なかよし祭り、親子清掃、芝生管理、オータムスクール

(3) 地域との連携による活動

スクールガード、ボランティア感謝の会、あいさつ運動、三校合同下校、金管バンド（籠原地区敬老会演奏、熊谷ホームで演奏）、ミュージックダンスクラブ（熊谷ホームで披露）

3 研究内容

(1) 学習支援活動

ゲストティーチャーとして学習活動の支援をしていただいた。また、保健室や図書室の運営をサポートするなど、児童の学校生活を支援していただいている。



【5年理科指導】



【3年五家宝づくり体験】



【5年琴教室】



【1年昔遊び体験】

(2) おやじの会の活動

「おやじの会」が主体となり、教職員と保護者が一体となった独自の体験活動を実施している。

ア 稲作体験（6月・田植え 10月・稲刈り）

毎年、三ヶ尻地区の水田で、稲作体験を実施している。水田は、三ヶ尻八幡神社から鎌倉の鶴岡八幡宮に米を奉納するための神饞田である。本校の児童だけでなく、三ヶ尻小学校、熊谷西小学校、鶴岡八幡宮が主催する子供会「鶴の子会」の児童が参加し、田植え、稲刈りを行っている。

第9「地域の教育力を生かした学習支援の取組の推進のための研究実践事例」

イ 水鉄砲合戦と流しそうめん体験

3年前から行われている活動であり、約200人の児童が参加した。水鉄砲合戦では縦割りのチームに分かれ、相手チームの頭の上の的をめがけてねらい、倒していくというルールで行った。児童たちと一緒に保護者や教員も混じり校庭を走り回った。流しそうめんは、事前におやじの会のメンバーが竹林から竹を切って割り、当日4つのレーンを作成した。流れてくるそうめんを食べ、日本の文化に触れることができた。



〔田植え〕



〔稲刈り〕



〔水鉄砲合戦〕



〔流しそうめん〕

ウ オータムスクール（10月）

全校希望者縦割り集団による1泊2日の宿泊体験学習である。初日の午後にはTV番組「逃走中」を模したゲーム、夕御飯作り、教員が中心となって行うキャンプファイヤーと花火、体育館での班対抗のドミノ倒し、また肝試し大会を行い体育館で宿泊をした。2日目は手作りの朝食をとり、ドッジビー（ボールの代わりにフリスビーを使った「ドッジボール」）大会とペットボトルロケット作り・飛ばしを行った。最後に閉校式を行い解散した。5・6年生がリーダーとして班をまとめ、低学年の面倒をみる姿が見られた。約150名の児童が参加した。



〔逃走中〕



〔カレー作り〕



〔キャンプファイヤー〕



〔体育館で就寝〕

(3) 地域との連携による活動

ア 見守り活動

スクールガード・リーダー（自治会長）を中心に、各自治会の方及びボランティアの方に登下校の見守り活動・あいさつ運動を行っていただいた。

イ 芝生の管理

校庭の芝の維持・管理に協力していただいている。芝刈り、芝の雑草抜きなどを自治会ごとに輪番で行っていただいた。

ウ 金管バンド

3～6年生の希望者で組織した金管バンドでは、地域のイベントで演奏したり、さらに、敬老会や熊谷ホームに訪問し、高齢者の方にも演奏を披露している。

4 研究の成果

- (1) 様々な経験をとおして、人や社会、自然に対するやさしい心を育成することができた。
- (2) 多種多様な方々に御指導をいただくことにより、たくさんの地域の皆さんとの交流を深めるとともに、多くの豊かな体験ができた。
- (3) 学力・豊かな心・体力を相互に関連させることで、それらをスパイラル的に向上させることができた。

5 課題と今後の展望

- (1) 限られた授業時数の中で、学校応援団や地域とのつながりをどのように教育課程に位置付け、成果を上げるのか、教育構想を十分に練る必要がある。
- (2) 今後、取組をどのように継続していくかを踏まえながら、地道に進めていくべきと考える。
- (3) 教職員の負担軽減との兼ね合いを図りつつ、地域との連携を推進していくために他校の実践を参考にしていく必要がある。

皆野町 研究指定校：皆野町立三沢小学校

研究テーマ 地域と共にある学校づくりの推進

～ コミュニティ・スクールの推進に向けて ～

1 研究のねらい

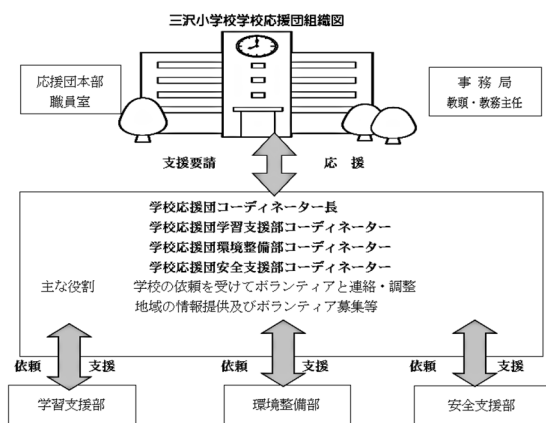
本校は、地域や保護者が協力的であり、従前より地域や保護者の人材を生かした教育活動を展開してきた。一方で、十分に人材を活用しきれていなかったり、引き継ぎが円滑にいかなかったりと地域や保護者の人材を十分に活用できていなかったところもある。

今年度は、学校応援団を組織的に立ち上げ、十分且つ効果的な機能を果たせる持続可能な組織づくりに努めると共に、積極的な情報提供と募集によって、本校の教育活動を通して地域がより一体となって、地域全体を盛り上げていくことをねらいとした。

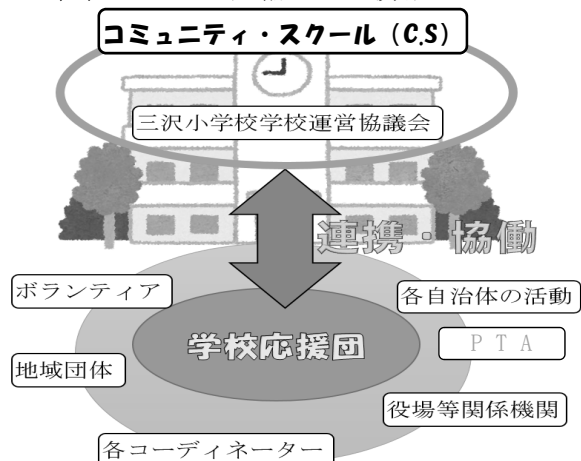
また、コミュニティ・スクールの推進に当たり、教育活動への参画による地域住民や保護者の自己実現に資する活動の場としての提供や「地域の学校」という意識改革・啓発を図っていく。

2 活動の概要

(1) 組織図イメージ



(2) コミュニティ・スクールと学校応援団の位置づけ ～両輪での連携推進～



(3) 主な活動内容

ア 学習支援部

- 生活科「まちたんけん」の見学・説明（2年生）【地域】
 - ・ 地域のスーパー見学（田中屋・三沢ショップ）
 - ・ クリーニング店の見学（横田クリーニング）
 - ・ おまんじゅう屋さんのお見学と調理体験（みずほの里）
- 総合的な学習の時間（三沢っ子タイム）ゲストティーチャー支援【地域・保護者】
 - ・ 郷土料理作り（4年生）
 - ・ 三沢の自然散策、竹水鉄砲作りの講師、昔のくらしや道具の紹介・説明の講師（3年生）
- 水泳教室着衣泳（体育）の講師（全校）【地域】
- 収穫祭（焼き芋）の火の管理【保護者】
- 運動会準備・片付け手伝い【地域・保護者】
- 読み聞かせボランティア「スマイル」による読み聞かせ【保護者】
- 諏訪神社の獅子舞の指導【地域】



【地域のスーパー見学】

第9「地域の教育力を生かした学習支援の取組の推進のための研究実践事例」

- イ 安心・安全確保への支援（安全支援部）
 - 学校安全ボランティアによる登下校の見守り【地域】
 - P T A常置委員会（校外指導委員会）の通学路危険箇所点検と河川点検【保護者】
- ウ 学校の環境整備への支援（環境整備部）
 - 学校ファームの管理（耕運・肥料・除草・指導助言）【地域・保護者】
 - 夏季休業中の親子環境整備作業の実施【地域・保護者】



【学校安全ボランティアによる登下校の見守り】

3 研究内容

(1) 学習支援部

児童が、地域に見学に行くと「いつも、みんなが来るのを楽しみにしているんですよ！」「元気をもらえるんです。」そんな言葉をいただくことが多い。また、ボランティアサークル「スマイル」による読み聞かせでは、児童の発達段階に応じた関心や意欲を喚起する題材を選び、熱心に読み聞かせをしてもらうことで、情操教育や、豊かな心の育成につながっている。



【地域の指導者による水泳教室】

(2) 安全支援部

全校児童33名に対し70名を越す学校安全ボランティアの方が登下校を見守っている。過去10年間、登下校における児童の事故はゼロである。また、保護者による通学路点検や近隣の河川の危険箇所点検を実施し、安心・安全な地域づくりの啓発・発信をしている。

(3) 環境整備部

学校応援団の方に学校ファームの管理や作物の栽培づくり等の指導助言をもらっている。夏季休業中には、親子環境整備作業として、児童・P T A・地域・本校職員が一緒になって、遊具のペンキ塗り、窓ふき、体育館の清掃、校庭・学校ファームの除草をしている。児童が、気持ちよく安全に学校生活を送り、学習成果を保障できるような環境づくりを支援してもらっている。

4 研究の成果

- (1) 地域の教育力を教育活動に生かすことで、学校と地域との連携意識が高まった。
- (2) 学校・家庭・地域が一体となった小規模校の良さを生かし、地域と共に歩む教育活動を推進している。
- (3) 学校応援団のメンバーを募ったり、お願いしたりすることにより、組織化や活動の充実を図り、持続可能な活動をする素地ができつつある。

5 課題と今後の展望

- (1) 毎年度の見直しや人材の確保、発掘、更新を適宜行っていくことが必要である。
- (2) 地域の人材の更なる発掘と学校応援団の後継者の育成が必要である。
- (3) 保護者に対して、学校応援団への継続的参加を呼びかけていく必要がある。
- (4) 平成30年度から立ち上げるコミュニティ・スクールの推進に向け、学校応援団を活用しながら、地域による学校の「支援」から、地域との双方向の「連携・協働」を推進する必要がある。

宮代町 研究指定校：宮代町立須賀小学校

研究テーマ 地域の教育資源を活用した豊かな教育活動の取組

～ 地域の方々の主体的参画を得た学習支援体制の構築に向けて ～

1 研究のねらい

本校の「学校応援団」は、平成21年度に組織され、活動9年目を迎えた。活動に参加するボランティアの高齢化や活動のマンネリ化が課題となっており、地域の新たな力を得て、多様な教育活動の展開を図りたいと考えている。本校の近隣には、日本工業大学や、地域活動に積極的に参加している地元教育関係者が多く存在する。また、明治時代から続く歴史と伝統ある学校として地域から見守られ愛されている。こうした地理的環境を最大限に生かすことで、学習活動が充実し、児童のよりよい成長につながるものと考え、本テーマのもと研究に取り組むこととした。

2 活動の概要

目指す学校像の一つ「地域と共に創る『行き甲斐、居甲斐、やり甲斐』のある元気な学校」の具現化を図る。

(1) 本年度の重点及び努力点に向けての実践（中学校・家庭・地域との連携から）

ア 小中一貫教育の推進（9カ年を見通した学習活動・生徒指導・キャリア教育の推進）

- ・ 合同防災訓練の実施、授業参観、学習規律の共有化等の児童・生徒の継続的・効果的な交流
- ・ 小中一貫・連携のための推進委員会（定期的開催）、全体研修会の実施
- ・ 小・中、地域と共に取り組む「挨拶は心の架け橋・あいさつ日本一！」運動の推進

イ 教育ボランティア、ゲストティーチャー等外部人材の効果的な活用を推進する。

- ・ 学校応援団・地域の教育力の積極的活用

ウ 学校評議員制度の活用とPTAとの連携を深める。

- ・ P D C A サイクルを生かした学校経営の改革と保護者・地域に信頼される学校づくり

エ 学校応援団連絡会をとおして地域の教育力の計画的な導入と活用

オ 安全教育の充実

- ・ 通学路の安全点検や登下校での安全指導の充実、安心安全な登下校指導の推進（スクールガード・リーダー、交通指導員、安全パトロール、PTA立哨当番との連携強化）

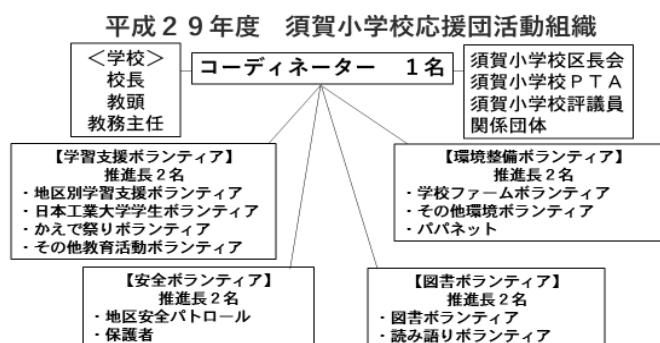
(2) 学校応援団実施要領の見直し

定義、目的、組織、コーディネーターの設置、推進長の設置、連絡会、活動についての見直し

(3) 学校応援団活動組織の強化

ア 学校応援団連絡会議の充実（開催回数の増加、町教委からの指導）

イ 4つのボランティア組織からそれぞれ課題の洗い出しと改善策の立案



〔学校応援団連絡会議〕

3 研究内容

本年度の重点・努力点を受け、年間活動計画をP D C Aサイクルの視点から発展させていく。

(1) 年間活動計画

ア 学習支援ボランティア

米作り（5月：5年生）、金管楽器指導（6・9月：6年生）、地区別学習会（8月）、南中ソーラン指導（9月：4年生）、ミシンの支援（10月：5・6年生）、書き初め指導（12・1月）、昔の遊び（1月：1年生）、日本工業大学出前授業ボランティア

イ 安全ボランティア

下校パトロール（通年）、交通安全の話（5・2月）

ウ 図書ボランティア

読み語りボランティア（通年 低・高学年を隔週で）、本の整理（通年）、本の紹介（7・12月）

エ 環境整備ボランティア

学校ファーム（通年）、環境整備（7月）、親子除草（8月）、環境整備・学校ファームの整地（2月）、日本工業大学ボランティア



〔夏休みの地区別学習会〕

(2) 活動の様子（2つの特徴的な取組の紹介）

ア 地区別学習会

夏休みの終盤に、1つの公民館及び7つの集会所の計8カ所で開催している。自主参加だが3～4割の児童が参加している。それぞれの会場で地域の方、中学生にボランティアとして学習のサポートをしてもらった。

イ 日本工業大学ボランティア

日本工業大学との連携により、学生の協力を得ることができた。内容は学校に一任されているため、今年度は教職員の校務システムの整備を依頼した。また、大学の先生による理科の出前授業も行った。



〔大学の先生による出前授業〕

4 研究の成果

- (1) 地域の教育力を得て、多様な教育活動ができています。
- (2) 教職員の地域連携に関する意識が高まり、学校を中核とした地域の活性化につながった。
- (3) 地域の大学や学習支援ボランティア等の教育資源を積極的に活用することで、学習活動の充実が図られた。
- (4) 関係者による会議を開催し、意見・情報交換をすることで、それぞれの思いが共有され、行政・学校・地域の連携・協働の体制が構築された。

5 課題と今後の展望

- (1) 地域の特色を生かした教育課程の充実をさらに推し進めるために必要とする事項
 - ア 成果と課題の累積及び毎年の教育課程への位置づけの検討
 - イ 地域への情報発信と情報収集
 - ウ 地域の教育力を生かす校内環境整備
- (2) 継続的に地域の教育力を得るために必要とされる働きかけ
 - ア 学校と学校応援団組織の連携強化と人材の開発
 - イ 地域活動や地域の行事への児童の積極的参加

平成29年度
「学校応援団」「放課後子供教室」
実践事例集
埼玉県教育委員会

平成30年3月発行

編集 埼玉県教育局市町村支援部家庭地域連携課

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1

電話 048-830-6976

FAX 048-830-4962

E-mail a6975@pref.saitama.lg.jp

生きる力を育て ^{きずな}絆を深める埼玉教育



埼玉県のマスコット「コバトン」「さいたまっち」